

都市問題等調査特別委員会

委員会資料

福岡空港の機能強化等について

令和6年1月17日

港湾空港局

目 次

福岡空港の機能強化等について

- 1 福岡空港の滑走路増設について P 1
- 2 福岡空港のへり機能の移設について P 3

- (資料)
- 福岡空港の利用状況等 P 4

別冊

【参考資料】

2023 年度第 2 四半期決算説明会資料（福岡国際空港株式会社）等

福岡空港の機能強化の概要



※ 国内線の平行誘導路二重化については、令和2年3月に供用済。
これにより、出発機と到着機が円滑に行き違えることができようになり、滑走路処理能力が年間約1.2万回増加。

1 福岡空港の滑走路増設について

① 事業目的

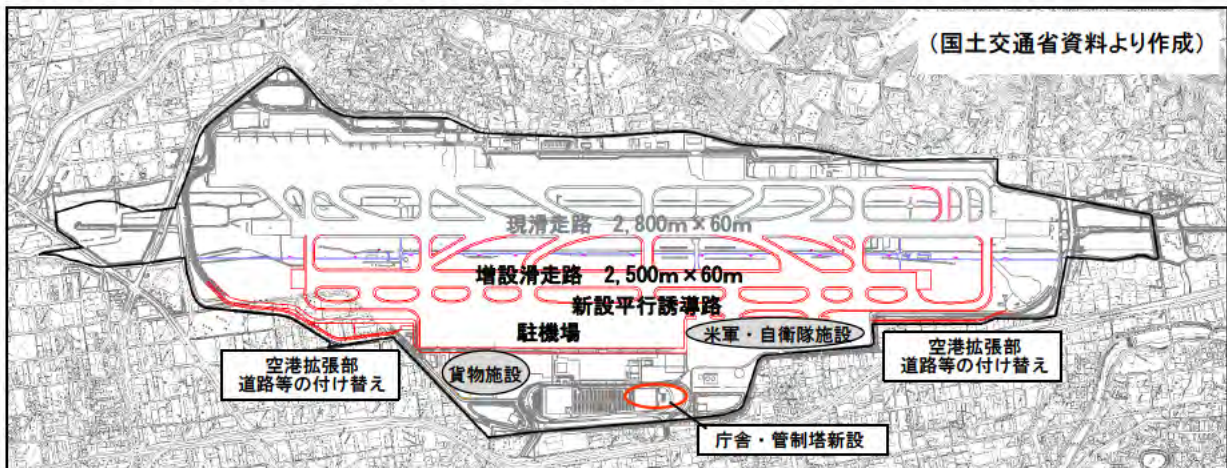
ピーク時の航空機混雑の解消や将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施。

■滑走路増設事業

- ・事業期間：平成27年度～令和7年3月(予定)
- ・滑走路処理能力：18.8万回/年(滑走路増設時点)
- ・計画総事業費：約1,643億円(市負担額：約180億円)

② 進捗状況

令和4年度までに滑走路増設に伴う用地買収、支障物件の移設及び土壌汚染対策等が完了、5年度は、滑走路・誘導路・管制塔等の整備が進められている。



■施工状況

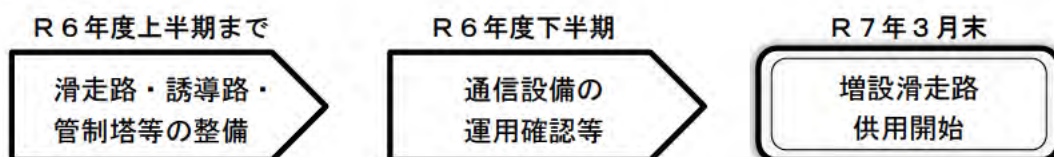
増設滑走路



庁舎・管制塔



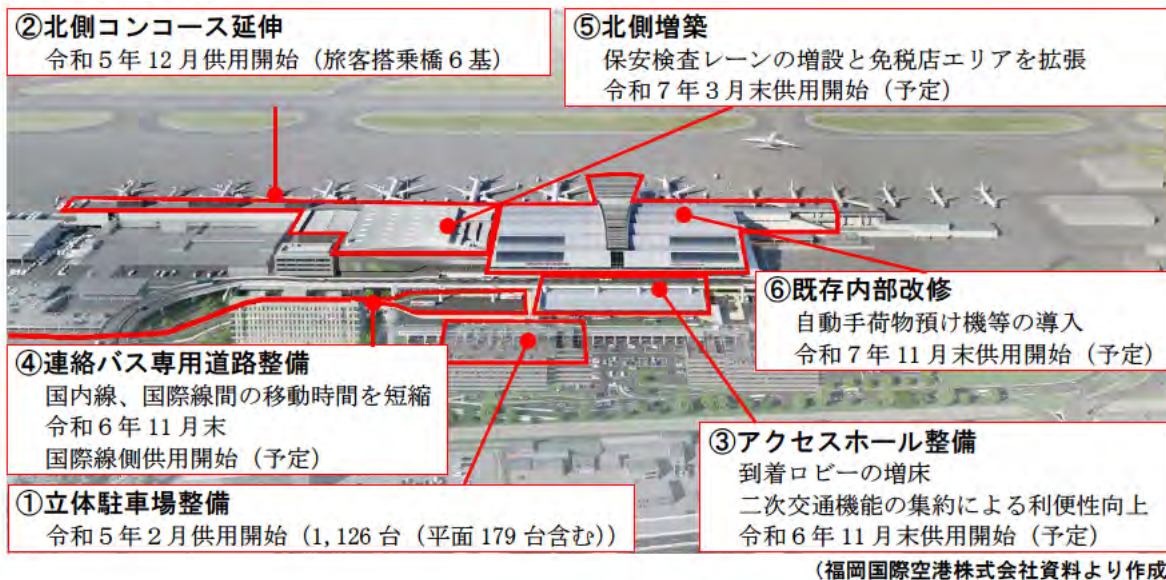
(今後の予定)



参考1 国際線地区の整備

- (1) 実施概要 ・ 空港ターミナル容量の拡大
・ 利便性の向上と魅力ある施設づくり
- (2) 実施期間 令和4年5月～令和7年11月末（予定）
- (3) 実施主体 福岡国際空港株式会社

■イメージ図



参考2 国内線地区の整備

- (1) 実施概要 ・ 空港利用者の増加を見据えた駐車容量の拡大
・ 利便性の向上と魅力ある施設づくり
- (2) 実施期間 令和5年2月～令和7年度（計画中）
- (3) 実施主体 福岡国際空港株式会社

■イメージ図



2 福岡空港のヘリ機能の移設について

① 事業目的

ヘリコプターの迅速な運航及び住民の安全・安心の確保等の役割を最大限に発揮することを目的として、空港場外にヘリ機能の移設を実施。

■ヘリ機能移設事業

- ・事業期間：平成30年度～令和2年3月（3月26日供用開始）
- ・所在地：福岡市東区大字奈多字^{こせぬき}小瀬抜
- ・面積：86,600㎡
- ・基本施設：滑走路、誘導路、駐機場
- ・ターミナル施設：管理庁舎、格納庫等

位置図



全景写真

(令和2年3月撮影)



■運用状況

- ・運用時間：24時間（※ただし、離着陸は原則として7時～21時）
- ・離着陸回数：15.3回/日（R4.4.1～R5.3.31の平均）

目的	令和4年度		環境影響評価時の予測値	
	回数	割合	回数	割合
消防等業務	996	18%	800	12%
捜索・救助等業務	1,583	28%	1,000	15%
報道取材	1,949	35%	3,000	44%
物資輸送・送電線等巡視など	1,057	19%	2,000	29%
合計	5,585	100%	7,000	100%
1日あたり平均離着陸回数	15.3回/日		19.2回/日	

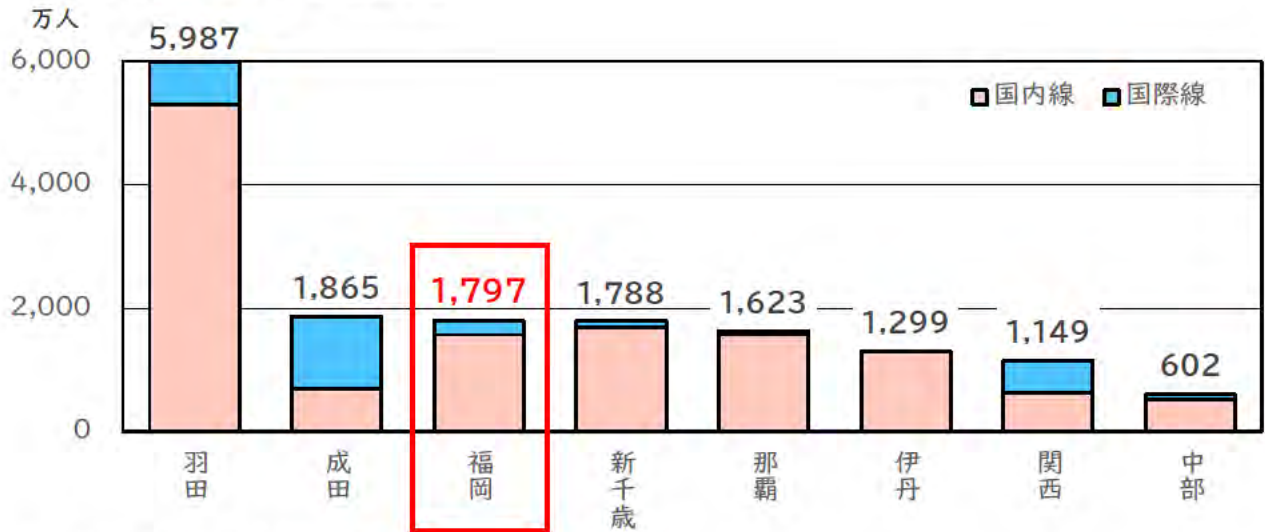
② 環境影響評価に基づく騒音等の事後調査

国において、福岡市環境影響評価条例に基づき、ヘリポート供用後の環境への影響を把握するため、令和2年度から3年間、航空機騒音等の調査が実施されており、現在は、調査結果の取りまとめが行われているところ。

1 福岡空港の利用状況について

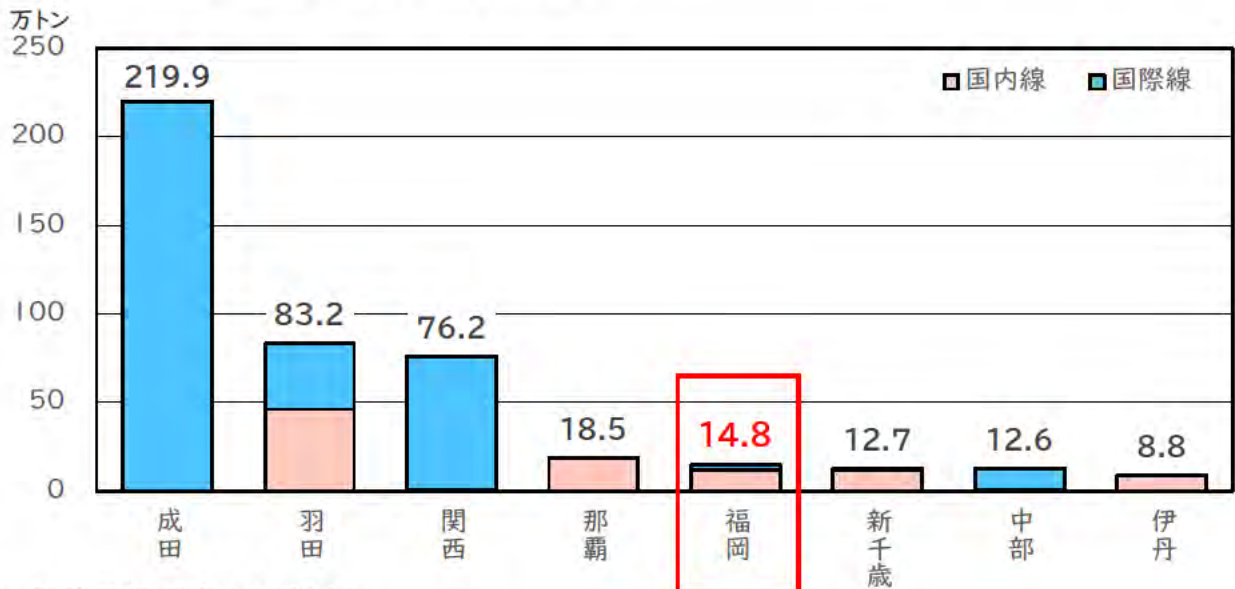
(1) 乗降客数 (令和4年度)

羽田、成田について全国第3位



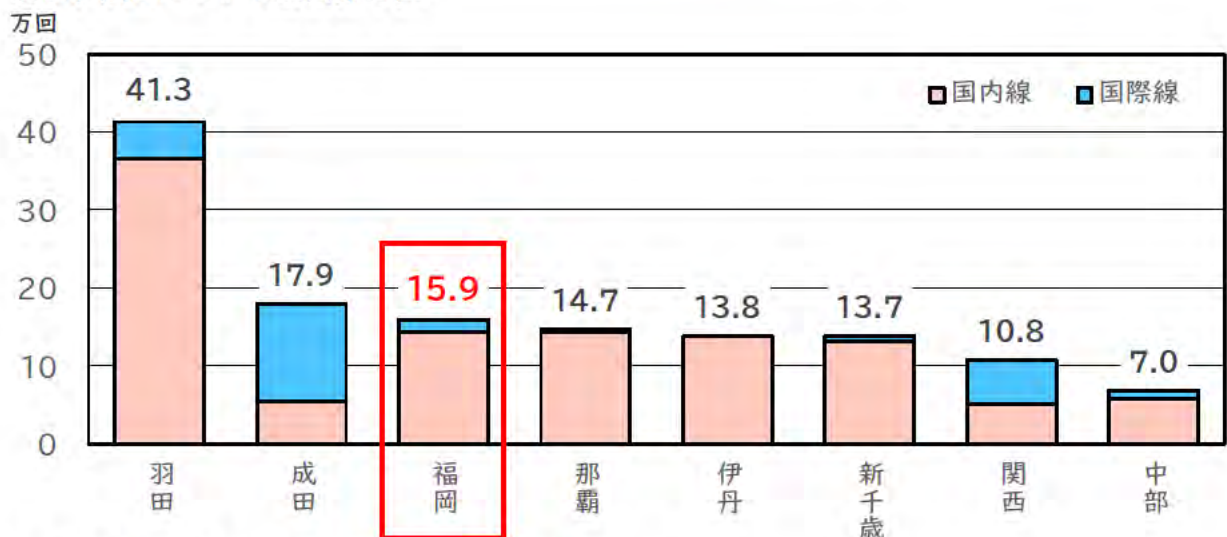
(2) 貨物取扱量 (令和4年度)

成田、羽田、関西、那覇について全国第5位



(3) 発着回数 (令和4年度)

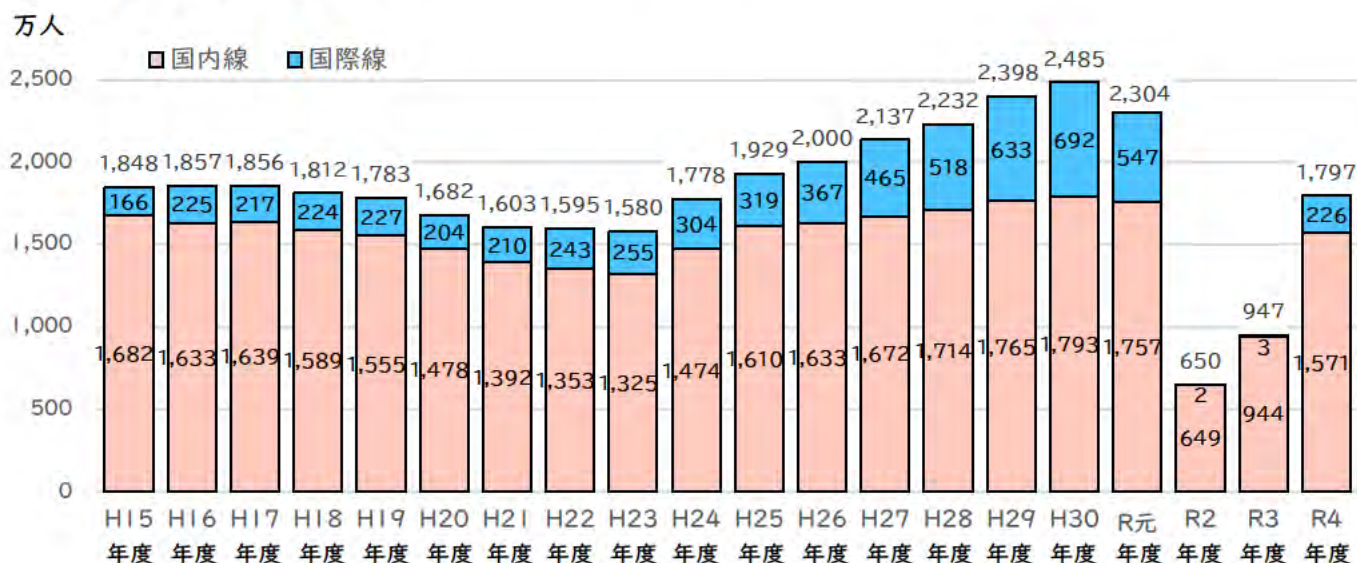
羽田、成田について全国第3位



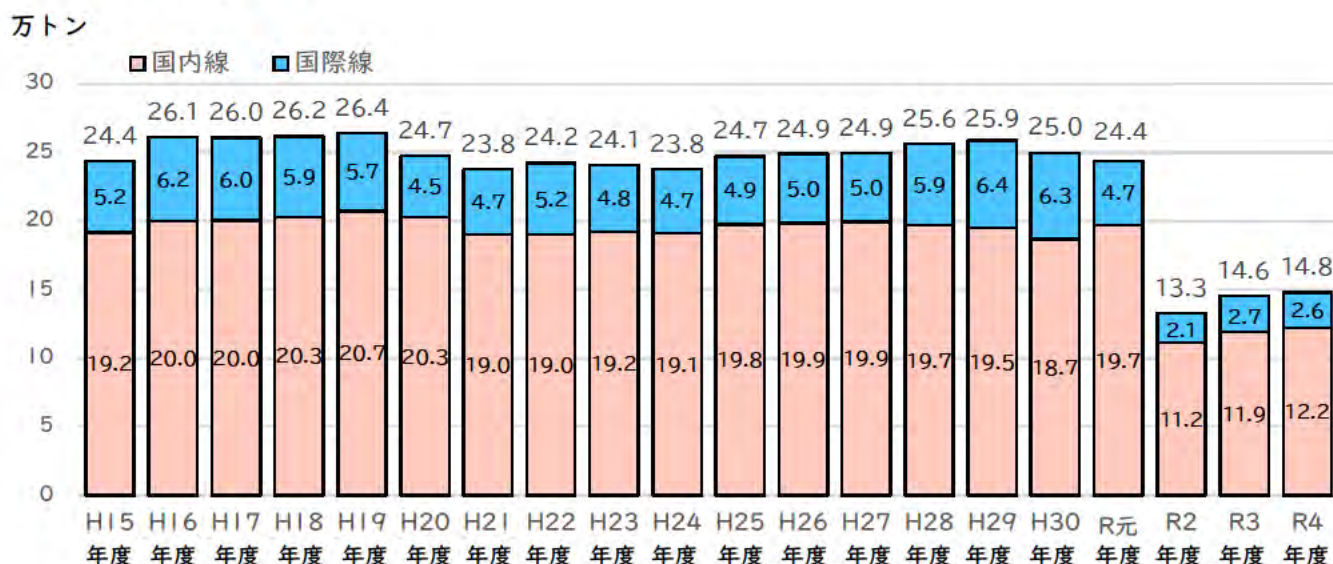
※国土交通省「空港管理状況調書」による (発着回数はヘリを含む)

(4) 乗降客数・貨物取扱量・発着回数の推移

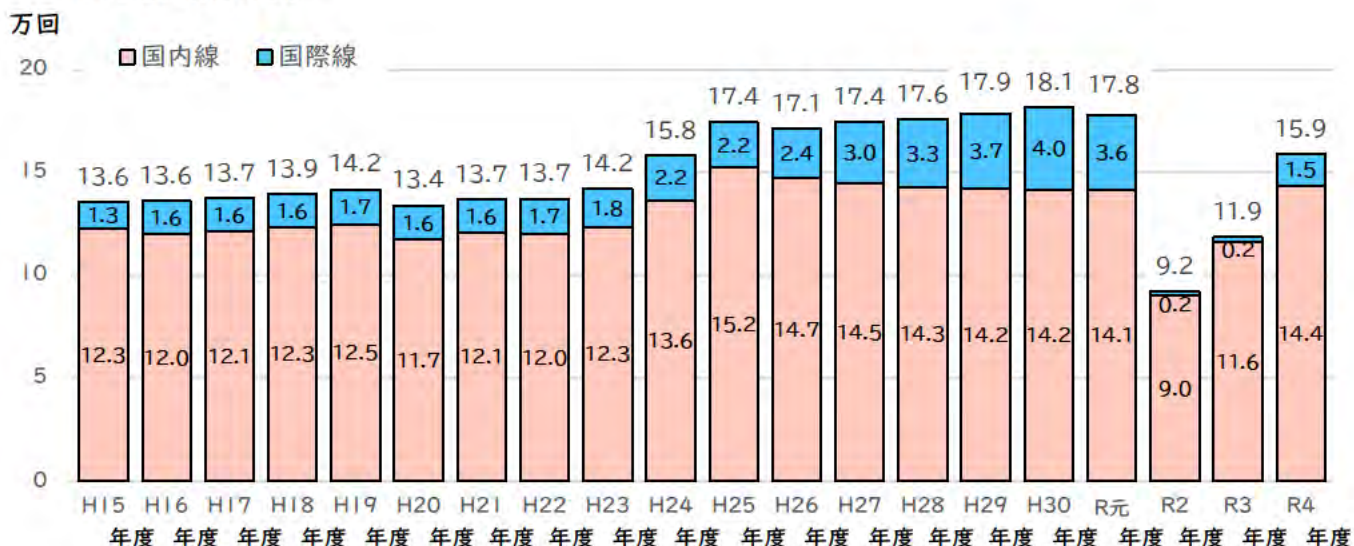
■乗降客数の推移



■貨物取扱量の推移



■発着回数の推移



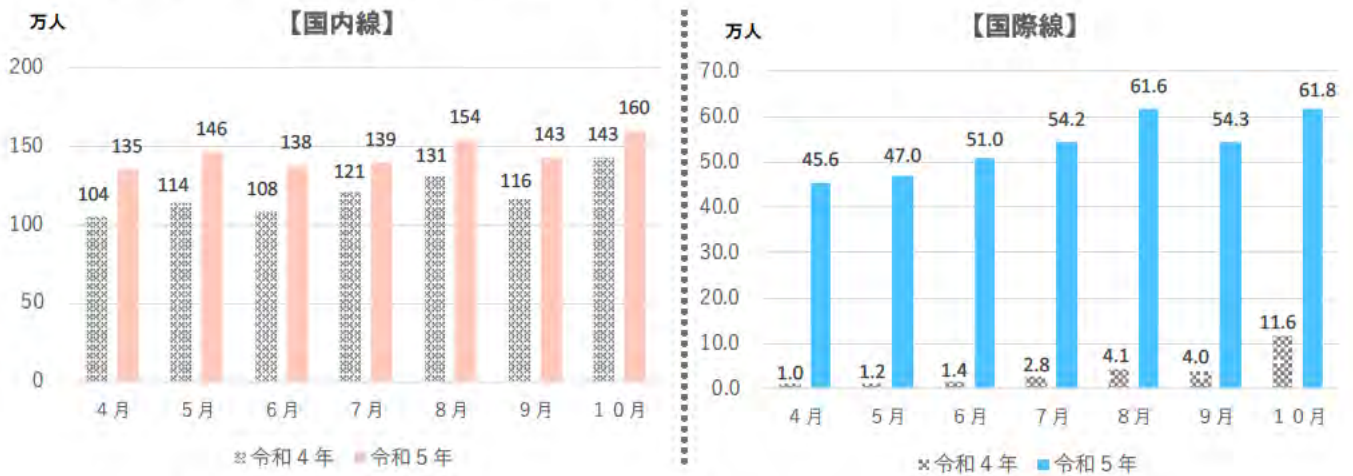
※国土交通省「空港管理状況調書」による（発着回数はヘリを含む）

【令和4、5年 4～10月累計】

区分		令和4年4～10月 累計	令和5年4～10月 累計	対前年比
乗降客数 (万人)	国際線	26	375	1,442.3%
	国内線	837	1,016	121.4%
	計	863	1,391	161.2%
貨物取扱量 (トン)	国際線	14,553	15,782	108.4%
	国内線	70,320	67,121	95.5%
	計	84,873	82,903	97.7%

※令和4年は、国土交通省「空港管理状況調書」による
 ※令和5年は、大阪航空局「管内空港の利用状況概況集計表（速報値）」による
 ※端数処理のため合計が合わない場合がある

【令和5年4～10月の月別内訳（乗降客数）】



※令和4年は、国土交通省「空港管理状況調書」による
 ※令和5年は、大阪航空局「管内空港の利用状況概況集計表（速報値）」による

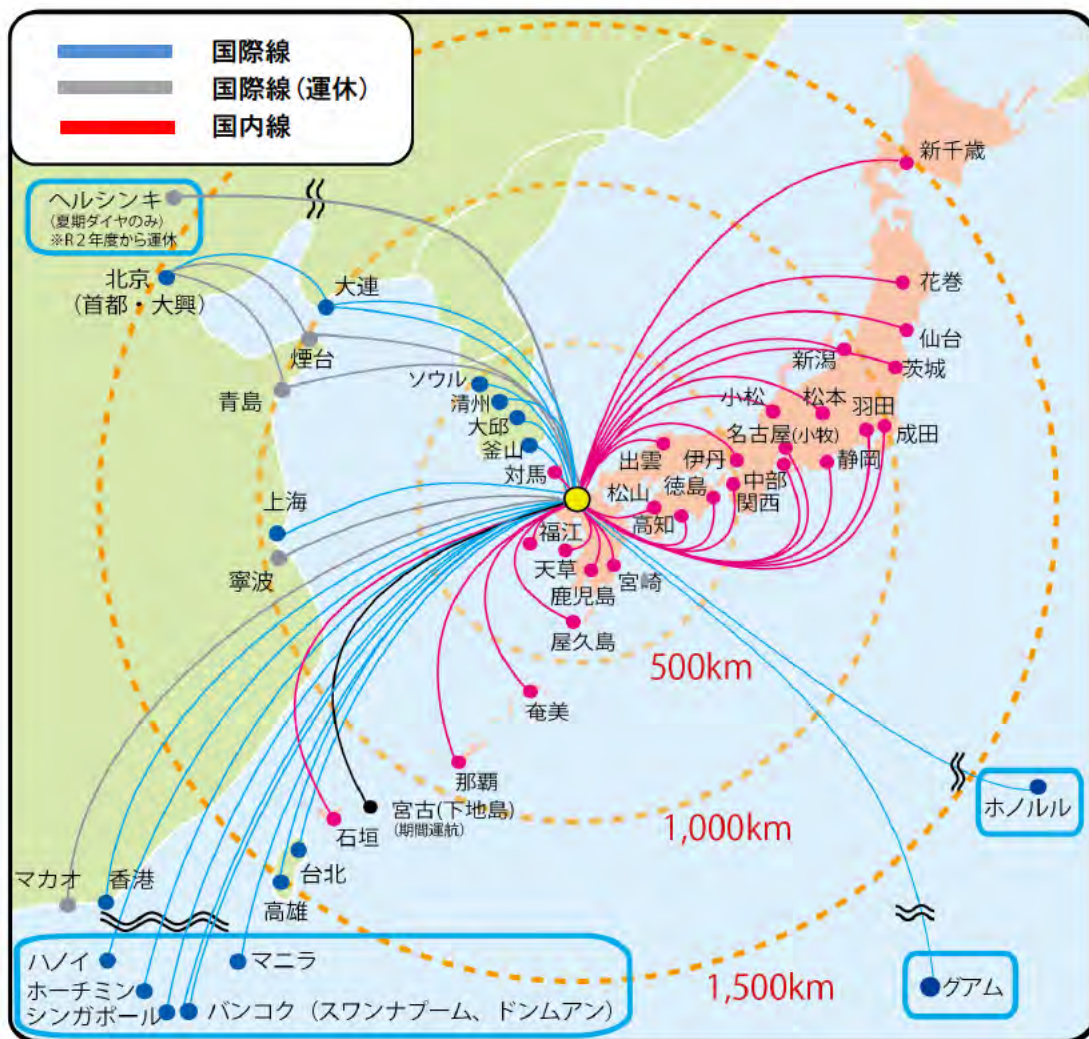
2 福岡空港の就航路線について

(1) 現在の路線数、便数（令和5年12月現在）

福岡空港の時刻表（12月）を基に福岡市港湾空港局で作成

区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行先
国際線	22 ※運休含む	812 (便/週)	28	<p>ソウル、釜山、大邱、清州、上海、北京、大連、 青島、煙台、寧波、台北、高雄、香港、 マカオ、マニラ、バンコク、ハノイ、ホーチミン、 シンガポール、グアム、ホノルル</p> <p>※下線部は時刻表上「運休」 計21都市（8カ国・地域）</p>
国内線	27	386 (便/日)	13	<p>羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、小松、松本、 茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、関西、伊丹、出雲、 松山、徳島、高知、対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、 屋久島、奄美、那覇、石垣</p> <p>計27空港</p>

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く



(2) 主な路線の新規就航状況（令和4、5年度）

◆ 国際線

就航日	路線	航空会社
令和4年7月2日	ハノイ	ベトジェットエア
令和4年7月16日	バンコク (スワンナプーム)	タイ・ベトジェットエア
令和4年7月22日	ソウル	エアプサン
令和4年10月12日	バンコク (ドンムアン)	タイ・エアアジア
令和5年4月7日	香港	香港航空
令和5年6月5日	上海	春秋航空
令和5年7月15日	ニンポー 寧波	春秋航空
令和5年8月4日	大連	春秋航空
令和5年11月26日	チョンジュ 清州	ティーウェイ航空
令和5年12月28日	上海	上海航空

※寧波は令和5年10月10日より運休

◆ 国内線

就航日	路線	航空会社
令和4年7月1日	新千歳	AIRDO
令和5年7月1日	宮古 (下地島)	スカイマーク

※宮古は令和5年7月1日～令和5年8月31日の期間運航

3 福岡市・福岡国際空港(株)協議会について

福岡市は、空港運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により、福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場（福岡市・福岡国際空港(株)協議会）を設置している。

（令和5年1月以降分）

開催日・出席者	概要
<p>令和5年2月3日（協議会）</p> <p>【福岡市】 市長、副市長、 港湾空港局長、理事 他</p> <p>【運営会社】 社長、副社長、 経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から、今年度で開催した幹事会の概要を報告。 ・運営会社から、12月の旅客数は、2018年と比較して国内線は同水準まで回復、国際線も約6割まで回復しているなど、運航状況についての説明。市から、現在の保安検査場の混雑緩和の取組みを求めるとともに、増設滑走路の完成を見据え、姉妹都市である広州などをはじめとしたアジアの未就航都市などの路線誘致に連携して取り組むことを確認。 ・運営会社から、国際線ターミナル整備での保安検査レーンの増設、内線連絡バス専用道の整備、国内線地区における立体駐車場や一般車乗降場の整備などの取組みについて説明があり、市から、引き続き利用者の利便性向上に向けた取組みを要請。 ・世界水泳の開催に向け、市と運営会社が協力して、玄関口となる福岡空港で、より良いおもてなしができるよう積極的に取り組んでいくことを確認。 ・市から、空港の脱炭素化について、国の方針や市の計画を踏まえた積極的な取組みを要請。運営会社からは、国や空港内事業者と連携して空港脱炭素化推進計画を策定し、取組みを進めていく旨の発言があった。 ・市から次年度の事業計画策定にあたって、安全・安心で地域に寄り添った空港運営や多様な航空ネットワークの強化を要請し、運営会社から、これまでに出た意見を今後の計画や空港運営に反映させていく旨の発言があった。

<p>令和5年6月6日（幹事会）</p> <p>【福岡市】</p> <p>港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他</p> <p>【運営会社】</p> <p>副社長、 経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市から、前回の幹事会以降に開催された市議会における、空港関連の主な質疑について説明。 ・市から、令和5年度予算及び主要施策について説明し、世界水泳選手権福岡大会に向けたおもてなし事業についても紹介し協力を依頼。 ・運営会社から、2022年度決算について報告があり、新型コロナウイルス感染症の影響で依然として厳しい経営環境にあるが、旅客数、便数の急速な回復により収支は改善傾向にあり、資金繰りも確保できているとの説明があった。 ・運営会社から、2023年度事業計画について報告があり、これまで市が依頼してきた安全安心で周辺地域に寄り添った空港運営、航空ネットワークの強化、利用者利便の向上の事項が反映されていることを確認。 ・市が求めていた空港の混雑緩和について、運営会社から、保安検査における誘導員の配置や番台方式の導入、国内線駐車場における国際線側駐車場への誘導の取り組みにより、いずれも大きく改善が図られたとの説明があった。今年度、さらにスマートレーンの導入や新立体駐車場及び一般車乗降場の整備を進めるとの発言があった。
<p>令和5年12月4日（協議会）</p> <p>【福岡市】</p> <p>市長、副市長、 港湾空港局長、理事 他</p> <p>【運営会社】</p> <p>社長、副社長、 経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会社から、旅客数・便数については、コロナ前とほぼ同水準まで回復した、保安検査場や駐車場については、各種対策の実施により、現在、大きな混雑は発生していないとの報告があった。 ・滑走路増設やターミナル整備による空港の機能強化を契機に、アジアの未就航都市などの路線誘致に連携して取り組むことを確認。 ・運営会社から、ターミナルや内陸連絡バス専用道など施設整備の進捗状況について説明があり、市から、開発に伴う交通対策の実施を求めた。また、高付加価値旅行者等の受け入れ環境整備に向け、国への働きかけ等、連携して取り組むことを確認。 ・運営会社から、空港での脱炭素化推進については、国が策定する計画に沿って取り組みを進め、市のチャレンジ目標である2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロに貢献できるよう努力するとの発言があった。 ・市から、次期中期事業計画策定にあたって、安全・安心で地域に寄り添った空港運営や多様な航空ネットワークの強化を要請し、運営会社から、これまでに出了意見をも今後の計画や空港運営に反映させていく旨の発言があった。